

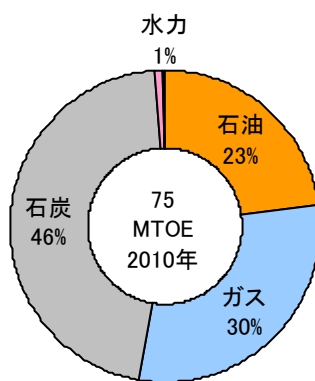
2-16 カザフスタン

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2010年) : 75 百万 TOE (日本の 0.16 倍)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 (2010年) : 4.60 T0E/人 (日本の 1.27 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 209%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 232.12 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 20.3%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 14.23 CO₂ 換算 ton (日本の 158.6%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2011年末) : 石油 44.7年、天然ガス 97.6年、石炭 290年

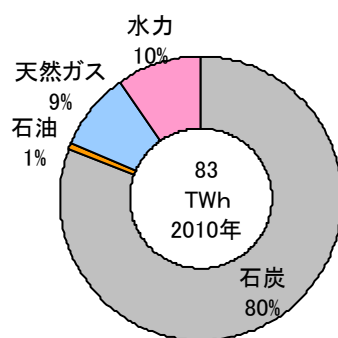
一次エネルギー供給構成 (2010年)



COUNTRY: Kazakhstan

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition

発電電力量構成 (2010年)



COUNTRY: Kazakhstan

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 2010年3月12日、Nazarbayev 大統領は、一部の省庁再編と大臣交代を実施。エネルギー・鉱物資源省（Ministry of Energy and Mineral Resources）を改組し、石油ガス省が設立された。また、産業貿易省は廃止され、新設の経済発展貿易省と産業新技術省が業務を引継いだ。産業新技術省は、電力及び原子力分野推進と規制業務をエネルギー・鉱物資源省から引継いだ。
- 但し、同国のエネルギー分野を実質的に支配しているのは、Nazarbayev 大統領娘婿の Timur Kulibayev 氏（国家福祉基金『Samruk-Kazyna』前総裁／ガスピロム現取締役）。

(2) 基本政策

- 石油・天然ガスの輸出拡大を目指し、外資誘致・インフラ整備・輸出先確保を進めてきたが、2005年の新PSA（生産物分与契約）法制定、2007年の炭化水素・鉱物資源開発法の改正等、国家による資源管理が強化され、外資に対する圧力が強まりつつある。
- 原油と天然ガス輸出路の多様化を模索している。その一環として、現行年間輸送能力2,800万tonのCPCパイプラインの能力拡張工事中（年間輸送能力6,700万tonに）。一方、中国向け原油パイプライン（カザフ西部－中国国境間、年間輸送能力2,000万ton）も完工。中国向け輸送インフラが整備された。更に、カザフ原油をカスピ海経由、欧州に輸出する『KCTS』（Kazakhstan Caspian Transportation System）構築を目指す。

(3) 最近の動向

- 2012年5月頃より、外資コンソーシアム側によるカザフ要人に対する贈賄疑獄が報道されている。外資規制の動きに繋がる恐れがあり、今後の展開を注視する必要あり。
- インドONGCは2012年11月、米ConocoPhillipsのKashagan海洋鉱区の全権益を取得することで合意したと発表。実際の手続き譲渡手続き完了は2013年前半の予定となる。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- カスピ海Kashagan油田を探鉱・開発するAIOC(North Caspian Operating Co.)コンソーシアムに、Inpex（国際石油開発帝石）が7.56%出資している。
- 2010年3月、岡田克也外務大臣とKamaldinov 駐日カザフスタン大使が日本カザフスタン原子力協定に署名。同年5月、同協定は国会で批准された。
- 2012年5月初旬、枝野経済産業相がカザフスタンを公式訪問。Kazatompromと日本側の間で、戦略的パートナーシップ覚書に調印した（日本側はJBIC/JOGMEC/住友商事）。
- カザフスタンには旧ソ連邦時代の老朽化した石炭火力発電所が数多くあり、経済産業省とNEDOが中心となり、日本のクリーンコール技術移転を検討中。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー供給量	75 百万 TOE	
(2)	一人当たり一次エネルギー供給量	4.60 TOE/人	
(3)	GDP 当たり一次エネルギー供給量	0.97 TOE/千\$	
(4)	エネルギー自給率	209 %	
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量 (2008 年)	232.12 百万 CO ₂ 換算 ton	
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量 (2008 年)	14.23 CO ₂ 換算 ton/人	
(7)	エネルギー源別構成	石炭	46 %
		石油	23 %
		ガス	30 %
		原子力	0.0 %
		再生可能エネルギー等	1.0 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	-109 %	
(9)	石油の輸入依存度	-385 %	
(10)	輸入原油の中東依存度	0 %	
(11)	原油輸入先	第 1 位	—
		第 2 位	—
		第 3 位	—

(出所) (1) ~ (4)、(7) ~ (9) は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition

(5) ~ (6) は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2012 Edition.

(10), (11) は Blackwell, World Oil Trade: An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements, September 2011.